

平成29年度 事業者向け 児童発達支援 評価表

ソレイユの森 麻生

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		必要に応じてパーティションで仕切る等の工夫を施しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		安全面に配慮し、加配をつけて対応しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		玄関や敷居に段差がないよう配慮しています。車いす等配慮の必要な方は現在いないため、もしいた場合は職員が手伝います。一日の流れを写真を使用し視覚的に把握しやすいようにしています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		清掃時に消毒を行っています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		会議等で話し合いながら、色々なケースについての話し合いを工夫しながら行っています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		事業所内研修を定期的に行っています。また、外部研修にも意欲的に参加を促しています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者との面談で、子どもへのニーズを聞き取り、職員間で会議を開いて話し合い、計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	他機関で判定されたツールを使用しています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		児童の発達における領域ごとにアセスメントを行い、現状、課題、目標、支援方法を記載している
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		普段の運動より思いきり体を動かせるように、より広い体操クラブの体育館を借用して支援内容を工夫しています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		交替で立案し、立案をもとにさらにくわしく内容を深めています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		実際にはまだ足りないが、工夫に心がけています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		必要に応じて個別(製作活動など)、集団のルールを身に付ける活動を行っています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前には必ず、支援の内容や役割分担を記載した用紙をもとに、職員間で打ち合わせをして確認しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		療育後振り返りを行う中で安全性、支援の反省を行、次回どうすればよいのか話あっています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的にモニタリングを行っています。

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		療育内容が運動なので、身体を動かすのに支障のある児童は受け入れておりません。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		
	㉔	移行支援として、保育所や幼稚園、認定こども園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		年間行事予定や行事前の特別日課などで学習活動の把握を行ったり、電話等で様子の情報交換を行っています。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		記録として残しての引き継ぎ電話連絡等で引継ぎを行っています。また、放課後等デイサービスへ移行する児童についての引継ぎも行い切れ目のない支援を目指しています。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修をうけているか	○		
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		今後積極的に参加していく予定です。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の保護者対応の中で、子どもの活動時の様子や課題の経過などを共有しあっています。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		保護者からの相談に応じて、個別に相談を受けたり、助言等を行っています。
保護者への説明責任等	㉛	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	㉜	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		
	㉝	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談を受けた場合に親身になって話を聞き、考え方に幅を持たせるよう提案や助言をしています。
	㉞	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		
	㉟	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	㊱	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		
	㊲	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		
	㊳	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		
	㊴	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	○		
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		アレルギー対応の子どもの情報については、医師からの指示書はないが、保護者から丁寧に聞き取りをし、壁に掲示し、職員が周知を徹底しています。お菓子の内容を変更する等の配慮を行っています。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		現在は身体拘束をやむを得ずしなければならない児童がいないが、身体拘束については虐待防止研修等で確認しています。